

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Endometriosis and recurrent pregnancy loss as new risk factors for venous thromboembolism during pregnancy and postpartum: the JECS birth cohort

和文タイトル: 妊娠中の静脈血栓塞栓症の危険因子: エコチル調査による出生コホート

ユニットセンター(UC)等名: 愛知UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Thrombosis and Haemostasis

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 杉浦(小笠原)真弓

所属UC名: 愛知UC

目的: 日本人の妊娠中の静脈血栓塞栓症の頻度、危険因子を調べた出生コホートの報告は初めてであり、これらを明らかにする。

方法: エコチル研究における103,070妊娠のデータを用いて、静脈血栓塞栓症の頻度を調べる。年齢、BMI等の背景、既往歴、既往妊娠、生活習慣、妊娠合併症のうち、静脈血栓塞栓症の危険因子を調べる。

結果: 77人が静脈血栓塞栓症に罹患しており、その頻度は7.5人/1万妊娠であり、欧米と同等であった。子宮内膜症、習慣流産の既往歴が新たな危険因子であることが明らかになった。切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は既報告と同等に日本人にとっても危険因子であることがわかった。

考察: (研究の限界を含める)

静脈血栓塞栓症の頻度は低いため、10万人調査では危険因子の予測をするために十分な症例数とは言えない。しかし、日本人を対象とした出生コホートを用いた静脈血栓塞栓症の研究は初めてであり、子宮内膜症、習慣流産の既往歴が新たな危険因子であることが明らかになった。

結論: 子宮内膜症、習慣流産、切迫流産、切迫早産、早産、帝王切開術は静脈血栓塞栓症の危険因子であるため、妊娠中及び産褥の血栓予防のために注意を払う必要がある。